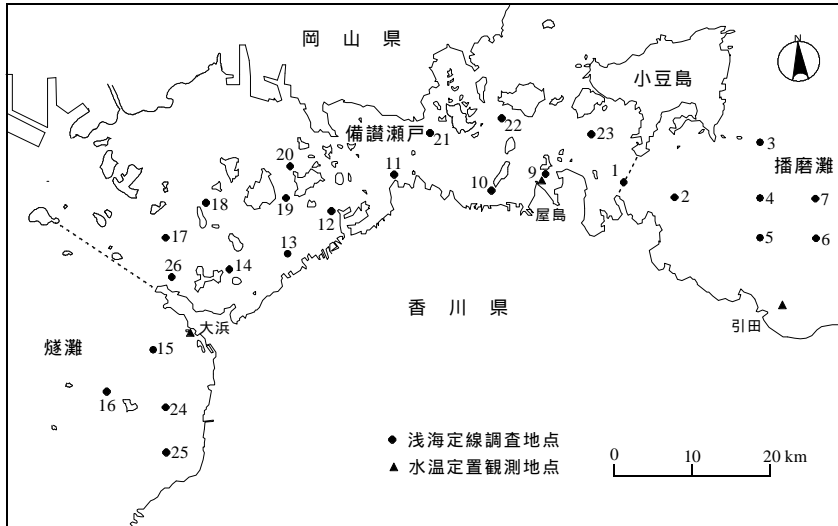


香川県漁海況速報 平成19年 10月 (H19-7号)

香川県水産試験場

1. 海況

1) 観測地点



2) 浅海定線調査

(1) 調査日

平成19年10月2日 (播磨灘) 1日 (備讃瀬戸、燧灘)

(2) 水質概況

平年と比較すると、水温は「かなり高めから著しく高め」、塩分は「平年並みからやや高め」、透明度は「やや高め」、溶存酸素は「かなり低めから平年並み」であった。

		水温 (°C)			塩分 (PSU)			透明度 (m)	溶存酸素 (ml/L)	
		表層	10m層	底層	表層	10m層	底層		表層	底層
播磨灘	7地点平均値	26.9	26.8	26.7	32.2	32.2	32.2	8.1	3.96	3.88
	平年値	24.9	24.8	24.7	31.6	31.7	31.8	6.9	4.42	4.07
	平年偏差	2.0	2.0	2.0	0.6	0.5	0.4	1.2	-0.46	-0.19
	状況	著しく高め	著しく高め	著しく高め	やや高め	平年並み	平年並み	やや高め	かなり低め	平年並み
備讃瀬戸	14地点平均値	26.9	26.9	26.9	32.4	32.4	32.4	5.2	4.02	4.05
	平年値	24.9	24.8	24.7	31.4	31.5	31.5	3.9	4.29	4.19
	平年偏差	2.1	2.1	2.1	1.0	0.9	0.9	1.3	-0.27	-0.14
	状況	著しく高め	著しく高め	著しく高め	やや高め	やや高め	やや高め	やや高め	やや低め	平年並み
燧灘	4地点平均値	26.5	26.4	26.4	32.7	32.7	32.8	9.8	3.99	3.80
	平年値	25.0	24.7	24.6	31.6	31.9	32.0	7.5	4.89	4.08
	平年偏差	1.5	1.7	1.8	1.1	0.8	0.8	2.3	-0.91	-0.27
	状況	かなり高め	著しく高め	著しく高め	やや高め	やや高め	やや高め	やや高め	かなり低め	平年並み

平年偏差 = 平均値 - 平年値

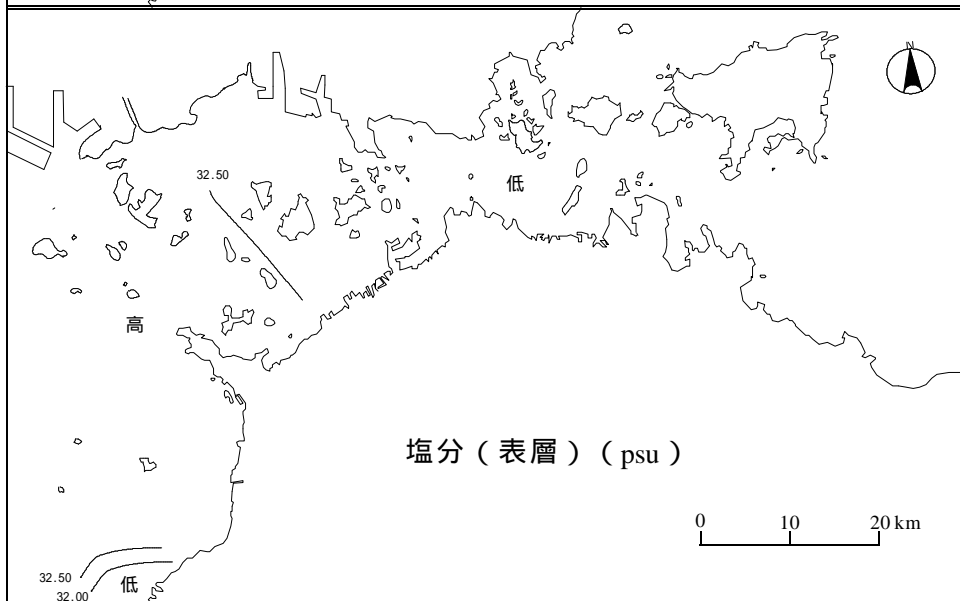
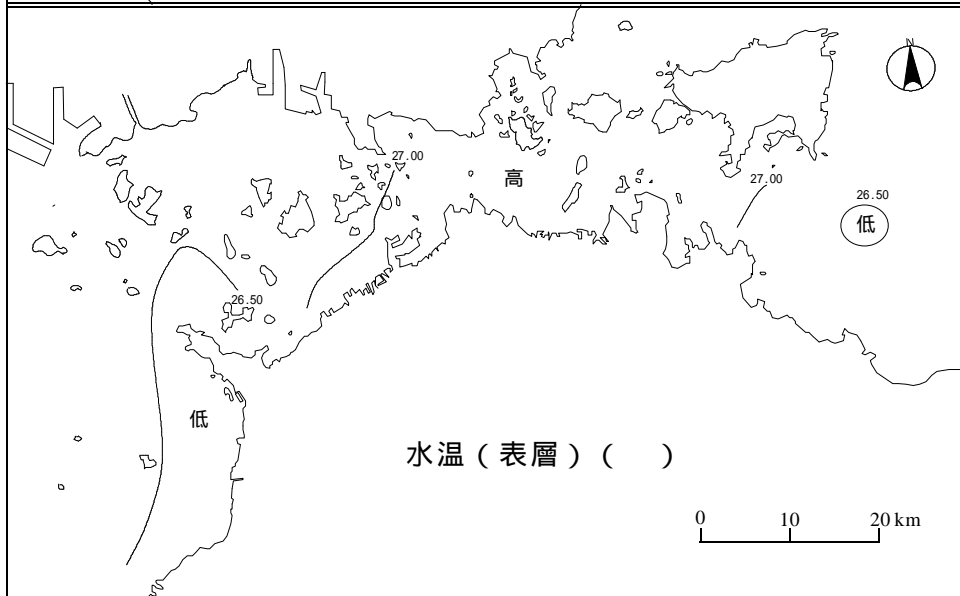
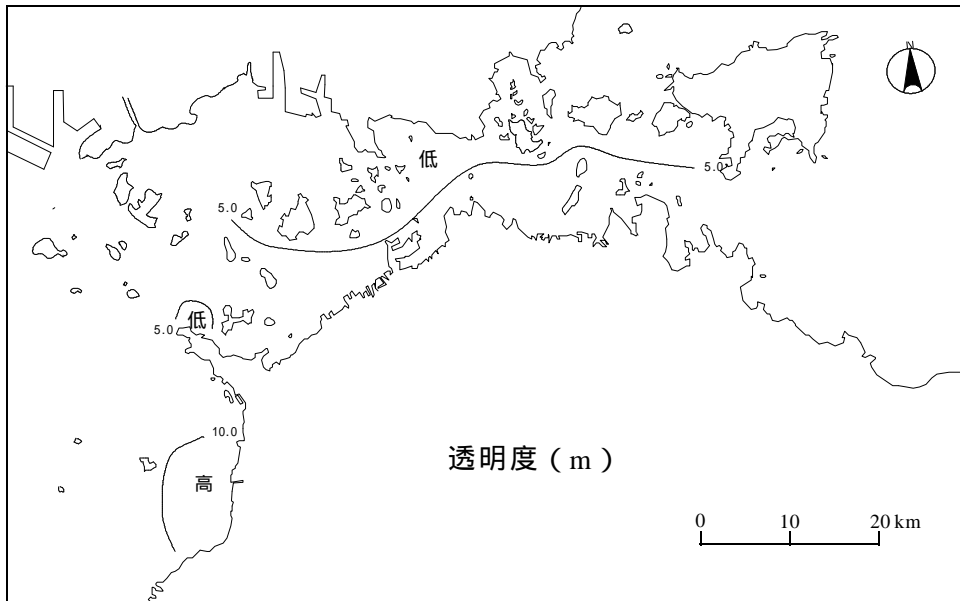
平年値の算出期間

水温、塩分及び透明度：昭和48年（1973）1月～平成13年（2002）12月

溶存酸素：昭和48年（1973）2月～平成13年（2002）12月

水温は、毎月1日の値に補正。

平年並み	0	平年偏差 < 0.6	(: 標準偏差)
やや高め (やや低め)	0.6	平年偏差 < 1.3	
かなり高め (かなり低め)	1.3	平年偏差 < 2.0	
著しく高め (著しく低め)	2.0	平年偏差	



3) 定置観測(水温)

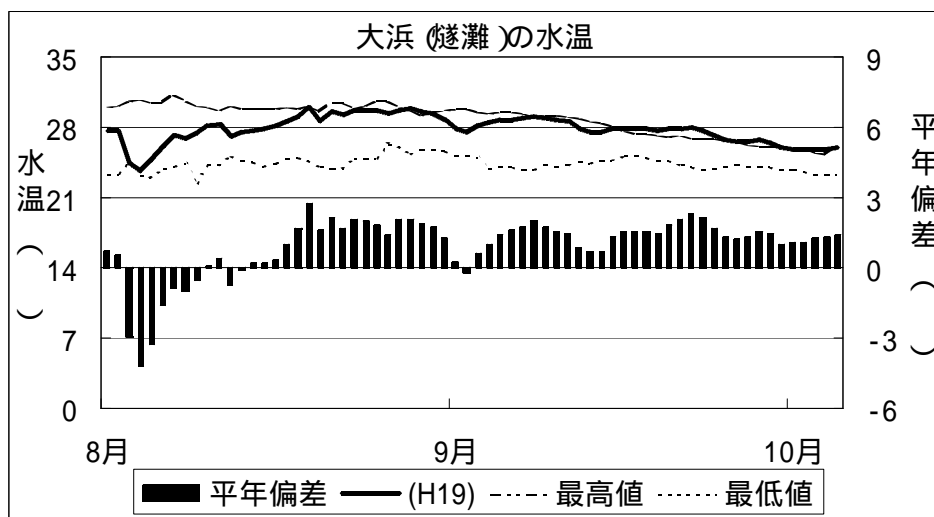
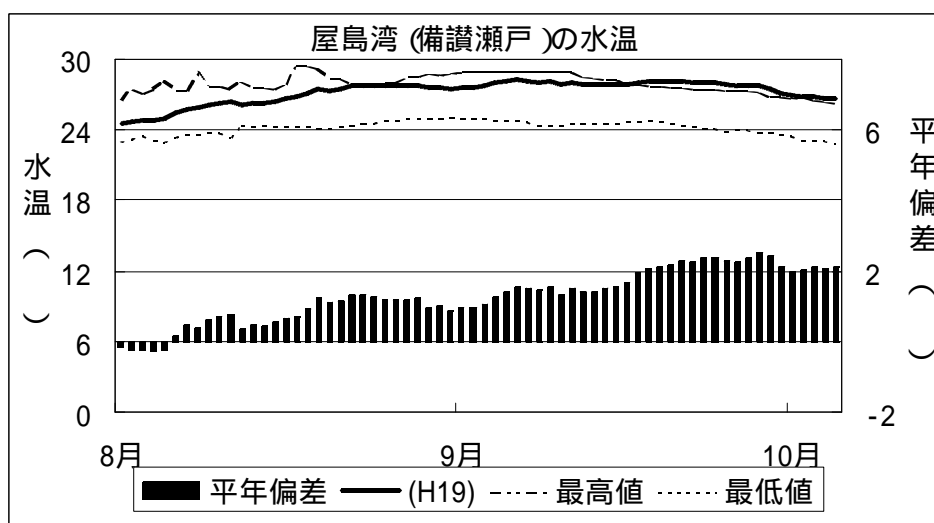
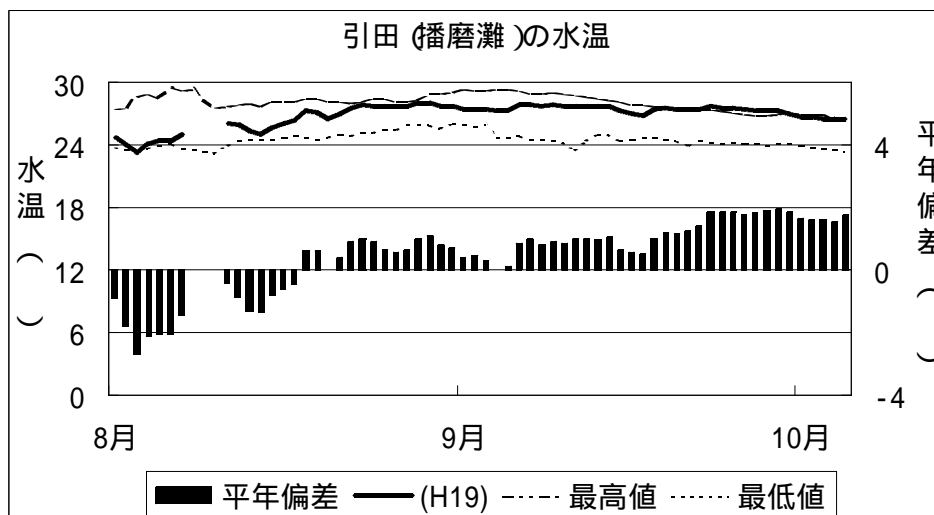
播磨灘(引田): 9月中旬以降かなり高めから著しく高めで推移、過去最高値を上回っている。

備讃瀬戸(屋島): 9後半以降著しく高めで推移、過去最高値を上回っている。

燧灘(大浜): 9後半以降著しく高めで推移、過去最高値を上回っている。

平年値の算出期間 引田及び大浜: 平成元(1989)~平成18(2006)年

屋島: 昭和50(1975)~平成18(2006)年



4) 赤潮 (9月11日 ~ 10月5日)

播磨灘：発生なし
 備讃瀬戸：発生なし。
 燧灘：発生なし。

5) 卵稚仔

調査日：平成19年10月2日 (播磨灘) 1日 (備讃瀬戸、燧灘)

出現量

個 (尾) / 曳網

	カタクチイワシ		マイワシ		サワラ		その他の魚類	
	卵	稚仔	卵	稚仔	卵	稚仔	卵	稚仔
播磨灘平均	0.25	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	2.38	11.13
備讃瀬戸平均	0.07	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.13	0.53
燧灘平均	0.14	0.14	0.00	0.00	0.00	0.00	0.43	1.43
総平均	0.13	0.03	0.00	0.00	0.00	0.00	0.80	3.57

対平年値

	カタクチイワシ		マイワシ	
	卵	稚仔	卵	稚仔
播磨灘平均	10.7%	0.0%	-	-
備讃瀬戸平均	116.7%	0.0%	-	-
燧灘平均	16.5%	140.0%	-	-
総平均	14.1%	33.3%	-	-

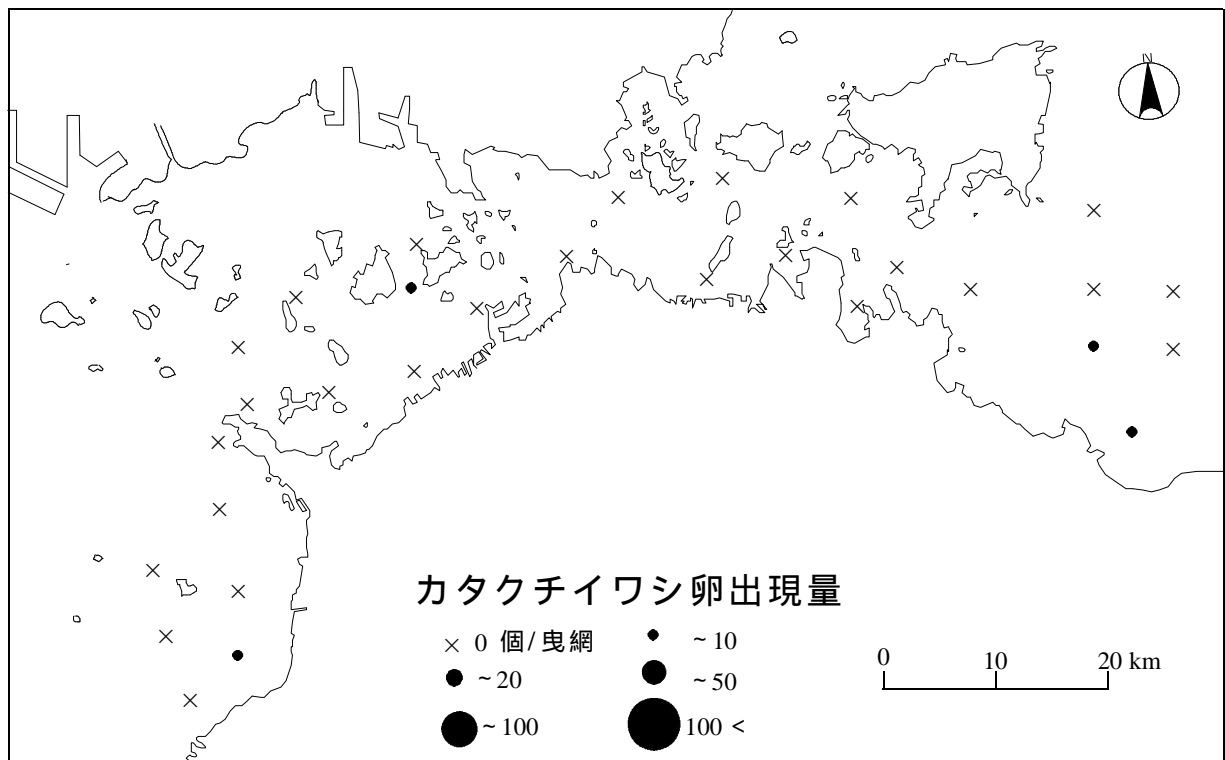
- 平年値が0の場合を示す。

平年値の算出期間

カタクチイワシ：昭和55 (1980) ~ 平成18 (2006) 年度

マイワシ：平成5 (1993) ~ 平成18 (2006) 年度

各調査点でカタクチイワシ卵の出現は、次のとおりである。



2. 漁況

9月からの漁況は次のとおりである。

海 域	漁 況
播 磨 灘	<p>底びき網では、主にイボダイ、小アジ、小エビ類、カマス類、アオリイカ、マダイ（小）クマエビが漁獲されているが、ウシノシタ類、マアナゴが少ない。</p> <p>桁網では主にタチウオ、アジ類（マアジ）、マルアジ、シマイサキ、イボダイが漁獲されているが、ツバスが少ない。</p> <p>船びき網のシラス漁の9月の漁獲量は、約10トンで前年を大きく上回った。サワラ流し刺し網の秋漁は資源保護のため、前年同様休漁している。</p>
備 讃 瀬 戸	<p>底びき網では、主にウシノシタ類、メイタガレイ、ニベ、カマス類、マダイ（小）、アカエビ、イイダコ、アカニシ、コウイカ類が漁獲され、特に、アカエビ、イイダコが多い。</p> <p>マナガツオ流し刺網は、9月末日まで漁獲が続き、前年を大きく上回る漁獲があった。</p> <p>サワラ流し刺し網の秋漁は資源保護のため、前年同様休漁している。</p>
燧 灘	<p>底びき網では、主にクマエビ、マアナゴ、シャコ、コウイカ（当歳）、メイタガレイ、タチウオ、カマス類、シロギスが漁獲されている。</p> <p>サワラ流し刺し網は10月から出漁しているが、漁獲は数尾程度と低調である。</p> <p>イワシ機船船びき網は、9月末日をもって漁期を終了したが、今漁期の漁獲量、生産金額はほぼ前年並みであった。</p>